

ViEW2026 ビジョン技術の実利用ワークショップ (講演題目をお書き下さい)

○平成太郎 †, ウィリアム・テイラー ‡ (講演者に○を付けてください)

†: 画像科学技術大学理工学部○○学科 (連名者全員の所属をできるだけ詳細にお書きください)

‡: ビジョン技術実利用株式会社 生産技術研究所

taro@image.eng.u-pc.ac.jp (代表者の E-mail アドレスをお書きください)

<キーワード>○○○, ○○○, ○○○ (キーワードを 3 語程度お書き下さい)

1. 講演題目

分かりやすく、発表内容にマッチした講演題目を簡潔に記述してください。サンプルのタイトルは削除ください。

2. 講演者氏名

連名者全員の名前をお書きください。発表者の前に○を付けてください。

3. 講演者所属

連名者全員の所属が分かるようにお書きください。部署等までできるだけ詳細にお書きください。

4. 代表者 E-mail アドレス

代表者の E-mail アドレスをお書きください。

5. キーワード

研究の内容を的確に表すキーワードを 3 語程度お書きください。

6. 講演申し込み

講演申し込みは、まず OpenConf [1] (<https://www.tc-iaip.org/ViEW/2026/openconf/>) へアクセスし、「サブミッションの作成」より ID 発行を行ってください。発行された ID 番号と設定したパスワードを使用して、「ファイルのアップロード」より講演概要をアップロードしてください。なお、講演概要は PDF 化 (5MB 以下) したうえでアップロードしてください。

ご不明な点等に関しては、OpenConf の「お問い合わせ」より遠慮なくご相談ください。

7. 発表形式に関して

ViEW2026 ではオーラル発表、ハイブリッドオーラル発表、インタラクティブ発表の三種類の発表形式があります。各講演の発表形式に関しては、プログラム委員会で決定しますので、予めご了承下さい。採択通知後に別途ご連絡いたします。

8. 講演概要原稿の作成に関して

発表内容が十分理解できるよう、本フォーマットを用いて、2 ページ程度で分かりやすく記述してください。1 枚以上の図表を入れることを推奨します。内容の記述に関しては以下を参考にしてください。また、スコープやキーワードとの関連について、必要に応じ講演概要にも記述してください。

- (1) 提案手法によって何をどう解決しようとしているのか、従来技術との関係にも触れながら簡潔に記述する。
- (2) アピールポイントを明確にしながら、提案手法の原理について述べる。
- (3) 提案手法によってどのような解決がなされるか (見通しでもよいので)、簡潔にまとめる。

9. 参考文献

適切な参考文献を引用し、論文内容の客観性、分野における位置づけなどを明確にしてください。参考文献 [2, 3] はこの例のようにカッコで示します。

10. 論文評価

ご提出いただきました概要の内容に関して、論文評価者からのコメントを付けさせていただきます。フルレングス (カメラレディ) 原稿をご執筆の際には、コメントの内容をぜひご活用ください。

11. 採択通知後の提出物

ViEW2026 ではフルレングス原稿を収録した電子版講演論文集を発行します。採択通知を受け取りましたら、フルレングス原稿をご用意いただき、再び OpenConf の「ファイルのアップロード」より提出してください。フルレングス原稿のテンプレートは採択通知後に OpenConf のトップページよりダウンロード可能となります。論文評価者からのコメントを参考にしつつ、研究の詳細内容を **2～8 ページ** で記載してください。 **5MB 以下の PDF** とし、ファイル名は「サブミッション ID.pdf」としてください。このフルレングス原稿の提出期間は、**採択通知後から 2026 年 10 月 23 日（金）まで**となります。

なお、電子版講演論文集の発刊は 2026 年 11 月 26 日（木）となり、**公知日は同日 2026 年 11 月 26 日（木）**となりますことにご留意ください。

参考文献

- [1] OpenConf: <https://www.tc-iaip.org/ViEW/2026/openconf/>
- [2] A. Field: Research on Subjects by Some methods, Trans. ISFA, Vol. 34, No. 2, pp. 83-120, 2001.
- [3] 課題好一郎：広大なインターネット空間を対象とする FA 手法の提案, 日本 FA 学会論文誌, Vol. 3, No. 4, pp. 124-129, 1999.